

岩永市長の オール甲賀へ一直線



まちづくりの役割は、市民の皆さんです。これからの時代、どうしても行政だけで全ての地域課題を克服し、活気あふれる地域づくりを進めていくことはできません。こうしたことから、市民や区・自治会、自治振興会、市民活動団体、事業者など多様な主体とともにオール甲賀の取り組みを進めることが不可欠であると考えています。

現在、市内ではさまざまな市民活動を展開していただいております。このことが元気の甲賀市の原動力のひとつになっています。

今後、さらにまちづくりにかかわっていただく市民の皆さんの裾野を広げ、すでに活動いただいている方々が出会い、つながり、そして新たな価値が生まれる、そのような市民活動の拠点となるようまちづくり活動センターには大きな期待を持っています。

このセンターは、今までの公共施設のイメージを変え、市民の誰もが立ち寄り、そこで甲賀市のまちづくりの展開について知っていただき、気軽にまちづくりに参画いただくことで皆さんの人生がより豊かになるための玄関口になればと考えています。

このセンターを中心に、市民活動につながる情報を地域市民センター等へつなぎ、お近くの地域市民センター等でも、同じような情報を手に入れることができるよう運営し、オール甲賀のまちづくりを展開していきます。



市民が集い交流することでつながり、 新たな連携や協働を生み出すには

つながりや仲間を作るためには、一人ずつに声かけを行い、事業を手伝ってもらい、一緒にすることで徐々に仲間が増えていくと思う。



初めての子育てで不安を抱え、家にこもってしまう方の居場所作りをしている。同じ悩みや不安を抱える方が集まる場をまず作り、そこで助けてもらった喜びがあると次に支える側になろうと思う。そして、その場が楽しかったり、面白かったりすると活動は継続していく。

市内には頑張っている女性が多い。地域で頑張る女性たちと地域の課題が結びついて、地縁団体などさまざまなところと協働できるとよい。いろいろな立場で、出会い・つながる場が持てればよいと思う。

団地ではみんなで協力して何かを行うことは少ない。除草作業だけで終わるのではなく、災害に対しての勉強会をするなど、自分たちのまちについて考える場があると良いと思う。

市内には同じ分野で活動しているグループがたくさんある。規模が小さくても大きくてもそれぞれの活動を批判せず、認め合う雰囲気づくりが大切。

まちづくり活動センターができるので、そこを活かして何かできないかとワクワク感や楽しみができた。障がい者も、高齢者も、みんなが集える場になることが大事。

市長と語ろう オール甲賀の座談会



市民の皆さんのご意見を今後のまちづくりに生かすため、市民の皆さんと市長が語り合う座談会を開催しています。

今回は、「市民活動が生まれるトコロ」と題して、2つのテーマで(仮称)まちづくりコア・ステーション運営検討懇話会のメンバーに語っていただきました。

市民のまちづくりへの参加を 活性化させるには

ボランティアだから「責任はない」、「できなったらやめる」のではなく、市民の誰もが自分の役割に責任を持ってまちづくりに参画することが大切。「自分たちのまちは自分たちで創る」という気持ちが大事。



地域での取り組みは幅広いので、まずは自分の好きなところや得意なところへの参加でよい。敷居の低さが大切だと思う。

まちづくりで一番大事なのは“意欲”だと思う。特に、リーダーになる人の意欲が大切。

市の市民協働提案制度のしくみを地域でも取り入れて活用している。予算も材料も保険も付けているので、しっかりと活動ができる。また、市民も好きなことには参画してくれる。「好きこそ物の上手なれ」を十分活かしていければ、もっとみんなが参加してくれる。

困ったこと・悔しかったことがきっかけで、「何とかしたい」「もしかしら、このまちが変わるかも」と思ったから活動を始めた。少しでも行動に移し、「まちが変わるかもしれない」という可能性を見せることで、活動する人が増えるのではないと思う。

イベントを実施する時に目立ってやりたいと思う人がいたり、イベント開催時には子どもを連れてきてくださいと声をかけたり、おもしろさから始めないと人は集まらない。まちづくりは、楽しさづくりが大事。

まずは、やってみるということが重要。やってみて課題があればその都度修正していくぐらいの気持ちで取り組んでよいのでは。

何か始めようとしたとき、市民はどこに相談すればいいかわからず、時間がたつてしまえばそんな気持ちもなくなってしまふ。大切な機会を逃していることも多いのではないかと。

市民が何か始めようと思ったときに、まず相談できる場所があればと思う。